二　比較形

① A（二）（シ・タリ・ナリ） 乎・于・於 N（一）（ヨリ（モ））　＝Nヨリ（モ）A／（Nより（も）A）

（例）

霜葉紅（二）**於**二月花（一）。　〔霜葉は二月の花より紅なり。〕

注　二月花…ここでは桃の花のこと。

（霜にあたって紅葉した葉は二月の花　　　）

青ハ取（二）リテ之ヲ於藍（一）ヨリ、而青（二）ク**於**藍（一）、…

注　藍…草の名前。

〔青は之を藍より取りて、　　　〕

（青色（の染料）は藍の草から取るが、（できあがる青色はもとの）　　　）

⇦

【弟子が師匠よりも優れた者になること＝『**出藍の誉れ**』】

②
不レ如カ／弗レ若カ ～ニ＝～ニしカず／（～の方がよい・～に及ばない）

（例）百聞ハ不如一見。（　　　　）（　　　　）

不レ如レ釈ゆるスニレ臣ヲ。（臣を釈すに　　　）（　　　）

注　釈…許す。

③
莫レ如クハ／無レ若クハ ～ニ＝～ニしクハなシ／（～にこしたことはない・～が一番よい）

（例）莫如良医。（　　　　）（　　　　）

④

莫レ／**無**レ ｝ **A**二ハ**於**N一ヨリ（モ）　＝NヨリモAハなシ／（NよりもAなものはない）

（例）　存二スル於人一ニ者ハ、**莫**レシ良キハ二**於**眸子（ぼうし）一ヨリ。

注　眸子…瞳。　良…素直。

〔人に存する者は、眸子より良きは莫し。〕

（人が身にもっているもので、　　　　　　）

⑤

莫レA〔＝連体形〕**焉**（これ）ハヨリ　＝これヨリAハなシ／（これよりAなものはない・これが一番Aだ）

（例）　天下**莫強焉**。　〔天下　　　　　　〕（天下で　　　　　　）

問二　「侵レス官ヲ之害ハ甚二於寒（かん）一」の傍線部を書き下し文にせよ。

注　甚…「甚（はなは）だし」。

問三　「云ハバ㆑無シト㆑効、則不如貧医。」の傍線部（不如貧医）を平仮名で書き下し文にせよ。

問四　「夫鬱莫㆘甚㆓於病㆒者㆖。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　夫（そ）れ鬱は病より甚しき者（もの）莫し。

イ　夫れ鬱は病より甚しき者（こと）莫きか。

ウ　夫れ鬱は病を甚しくする者（こと）莫し。

エ　夫れ鬱より病を甚しくする者（もの）莫し。

オ　夫れ鬱として病を甚しくする者（こと）莫かれ。

第15講　PART1　確認問題

① 「苛政ハ猛二於虎一也。」の傍線部の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　於いて虎は猛なり。
イ　虎よりも於いて猛なり。
ウ　虎よりも猛なり。
エ　虎を猛くするなり。

② 「無レ友二不レ如レ己者一。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　己よりも如かざる者に友は無し。
イ　己に如かざる者を友とすること無かれ。
ウ　己の如き者は友とならざるなり。
エ　己に如かずして者と友になること無し。

③ 「不レ如レ学也。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　学ぶ方がよい。
イ　学ばないにこしたことはない。
ウ　学ぶよりもよい。
エ　学ばない方がよい。

④「莫シレ若クハ二六国従親（しょうしん）シテ以テ擯（しりぞ）クルニレ秦ヲ。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　従親…ともに戦う同盟を結ぶ。
　　擯…追い払う。
　　秦…国名。

ア　六国がともに戦う同盟を結んで秦を追い払うようなものだ。
イ　六国がともに戦う同盟を結んで秦を追い払うことはできない。
ウ　六国がともに戦う同盟を結んで秦を追い払うほうがましだ。
エ　六国がともに戦う同盟を結んで秦を追い払うにこしたことはない。

⑤「莫レ良二於眸子（ぼうし）一。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　眸子…瞳。

ア　於いて眸子に良き莫し。
イ　眸子より良きは莫し。
ウ　眸子に於いては良きもの莫かれ。
エ　眸子は良きこと莫し。

第15講　PART1　解答

二

① 〔霜葉は二月の花**より**(**も**)紅なり。〕（霜にあたって紅葉した葉は二月の花**よりも赤い**。）

② 〔青は之を藍より取りて、**藍よりも青く**、…〕（青色は藍の草から取るが、**藍の草よりも青く**、…）

〔百聞は一見に如かず。〕（百回聞くより一回見たほうがよい。）

〔臣を釈すに**如かず**。〕（私を許したほうがよい。）

③ 〔良医に如くは莫し。〕（良医が一番よい。）

④ 〔人が身にもっているもので、**瞳より素直なものはない**。〕

⑤ 〔天下**焉より強きは莫し**。〕（天下で**これより強いものはない**。）

問二　寒より(も)甚だし

問三　ひんいにしかず。

問四　ア

第15講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「A二於・于・乎N一」の形で、「Nヨリ（モ）A」という比較形となる。「於」は置き字なので、書き下し文にする際には読まないように注意する。全文の書き下し文は「苛政は虎よりも猛なり。」となる。

② 「不レ如カ～ニ」・「弗レ若カ～ニ」で「～ニしカず」と読み、「～の方がよい・～に及ばない」という意味の比較形となる。「者」という体言につながるため、「不」は「ざる」と連体形にして書き下し文にする。

③ 書き下し文は「学ぶに如かざるなり。」となる。「不レ如カ～ニ」で「～の方がよい」となるので、「学ぶ方がよい。」という意味となる。

④ 書き下し文は「六国従親（しょうしん）して以て秦を擯（しりぞ）くるに若くは莫し。」となる。「～ニしクハなシ」は、「～にこしたことはない・～が一番よい」と訳す。よって、エが正解。

⑤ 「莫レAハ二於Nヨリ（モ）一」は「Nヨリ（モ）Aハなシ」と読み、「NよりもAなものはない」という意味の比較形となる。よって、書き下し文は「眸子（ぼうし）より良きは莫し。」となる。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ ア　④ エ　⑤ イ